

平成20年度研究成果実用化促進事業 採択課題一覧

番号	課題名	地域農業研究・普及協議会（事業実施主体）			課題の概要	
		名称	研究実施機関	実用化支援機関	基礎成果名称	開発研究の内容
1	ジャガイモシストセンチュウの簡易土壌検診技術の確立	シストセンチュウ検診技術 地域農業研究・普及協議会	北海道立中央農業試験場◎ 北海道立北見農業試験場 キリンアグリバイオ（株）植物開発研究所	（独）農研機構北海道農業研究センター （独）種苗管理センター 北海道中央農場 後志農業改良普及センター 網走農業改良普及センター JA北海道中央会、JAきたみらい JAところ、JA道央、JAようてい	プラスチックカップを用いたジャガイモシストセンチュウの簡易検出・密度推定法	本成果は試験研究機関が開発した基本技術であり、実施者の検診目的や設備状況等に対応した個々の細部技術は確立していない。そこで、主要産地の普及組織等と共に実証試験を経て、実用的な検診技術を確立する。
2	加工・業務用ホウレンソウの低コスト生産体系の確立	SPS関東地域農業研究・普及協議会	埼玉県農林総合研究センター	（社）日本施設園芸協会◎ 埼玉県本庄農林振興センター 株式会社ニシザワ （独）農研機構野菜茶業研究所	加工用ホウレンソウ収穫機 （加工用軟弱野菜一斉収穫機）	機械収穫を前提とした加工用ホウレンソウの栽培・作業体系が確立されていない。そこで、大型規格ホウレンソウの栽培技術、収穫機が有効に稼働できる栽培様式、加工工場への搬送を含めた作業体系等を開発する。
3	トウガラシ用台木品種によるパブリカの土壌病害回避技術の確立	山形県庄内地域農業研究・普及協議会	山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室◎	山形県庄内総合支庁産業経済部酒田農業技術普及課 庄内みどり農業協同組合（JA庄内みどり） 酒田市袖浦農業協同組合（JAそでうら）	万願寺トウガラシの疫病・青枯病複合抵抗性台木「トウガラシ安濃4号」の選定	栽培期間が長く完熟果での収穫となるパブリカでの病害抵抗性や生産性、果実品質が不明である。これらの評価、分析を現地との連携の下で進め、接ぎ木植物体に最適化した栽培管理技術の開発に取り組む。
4	東海地域の露地キャベツ作における「うね内部分施用技術」の確立	東海地域「うね内部分施用技術」普及協議会	愛知県農業総合試験場 東三河農業研究所 愛知県経済農業協同組合連合会	東三河農林水産事務所 農業改良普及課 豊橋農業協同組合 愛知みなみ農業協同組合 （株）サイエンス・クリエイト◎ （独）農研機構中央農業総合研究センター	肥料・農薬施用量を削減できる畝内条攪拌施用技術 キャベツ作において肥料施用量を約30%削減できる畝立て同時帯攪拌施用機	うね内部分施用技術は寒冷地域で実証済みであるが、温暖地域の異なる作型における最適施用量などの検証と修正が必要である。そこで、温暖地域の主要産地での実証を通じ、普遍的技術にブラッシュアップする。
5	雪冷熱利用によるイチゴの夏期高温対策と安定生産	置賜地域農業研究・普及協議会	山形県置賜総合支庁産業経済部産地研究室◎	農業技術普及課 西置賜農業技術普及課 飯豊町農業技術者会 飯豊町雪室施設管理組合	イチゴ10月どり栽培における自然換気型細霧冷房と遮光資材による昇温抑制	細霧冷房は施設経費が高いため普及が少ないと想定される。そこで、基礎研究によるハウス内温度の降下方法を、遮光と雪冷熱を活用した安価な方法を組み合わせて行い、効率的な花芽分化誘導技術を開発する。

番号	課題名	地域農業研究・普及協議会（事業実施主体）			課題の概要	
		名称	研究実施機関	実用化支援機関	基礎成果名称	開発研究の内容
6	大規模畑作地帯における加工・業務用キャベツ低コスト調整システムの確立	鹿追町営農指導対策協議会	北海道立十勝農業試験場 北海道大学 十勝農業改良普及センター 鹿追町農業協同組合◎	(独) 生研センター (独) 北海道農業研究センター 北海道立中央農業試験場 ヤンマー農機株式会社 エスアイ精工株式会社 サンポー食品(株) 横浜丸中青果株式会社	キャベツ調整選別ライン	キャベツ調整ラインは、生食用キャベツについては試験を行っているが、加工・業務用キャベツについては実施していない。また、収穫作業の大幅な省力化が図れる機械収穫のためには本調整システムが不可欠である。さらに、普及のためには実証試験を通じて開発研究する必要がある。
7	低段多段組合せ栽培によるトマト安定多収栽培体系の開発と実証	SHP関東地域農業研究・普及協議会	千葉大学大学院園芸学研究所 野菜園芸学研究室 神奈川県農業技術センター 野菜作物研究部、経営情報研究部	(社) 日本施設園芸協会◎ (独) 野菜茶業研究所 神奈川県農業技術センター普及指導部 野菜課 太洋興業株式会社	農作業支援ロボットを用いたトマト低コスト高生産システムの開発	実用規模の施設での作業管理体系等が未解決で、かつ低段密植栽培のみでは冬春期に十分な収量が確保できない。そこで、冬春期に多収となる多段栽培と組み合わせることによりトマトの周年安定多収栽培体系を確立する。
8	単味の食品残さを活用した発酵リキッドフィーディング技術の確立	豊川宝飯地域農業研究・普及協議会	日本大学生物資源科学部 愛知県農業総合試験場	ひまわり農業協同組合◎ 愛知県経済農業協同組合連合会 愛知県東三河農林水産事務所農業改良普及課 (株) 小田急ビルサービス	食品残さを活用した発酵リキッドフィーディング技術	特定乳酸菌による食品残さの発酵リキッドフィーディングを養豚農家が導入するには、発酵管理にコストと手間がかかるため中小農家経営の多い日本の養豚界においては普及が困難である。そのため、地域で発生する単味の食品残さをセンター方式にて発酵培養し発酵バイプロ液として畜産農家に供給することで、中小養豚農家でも導入できる低コストで効率的な発酵リキッドフィーディング技術を実現する。
9	「タカナリ」等多収穫稲品種の低コスト栽培・米粉利用適性の確立	新潟下越地域農業研究・普及協議会	グリコ栄養食品株式会社 新潟県農業総合研究所食品研究センター 新潟県農業総合研究所作物研究センター	新潟県稲作経営者会議◎ 協同組合 米ワールド21普及協議会 新潟県村上地域振興局農林振興部 坂井製粉製麺有限公司	多収穫品種「タカナリ」の育成	タカナリは、多用途利用を狙いとして育成された品種であり、関東以西での温暖地での収量性は高く有望なものの、主食用米としては食味が低いこと、多用途向け適性が明らかとなっていないこと等の理由から普及していない。このため、新たに米粉生産の盛んな北陸地域での低コスト栽培の可能性を検証するとともに、米粉利用に向け、新潟県が開発した微細製粉方法とのマッチング、パン、菓子等の用途別の積極的な加工適性を明らかにし、当該品種の能力を活用した利用拡大を図る。

注：◎は事務局担当機関